

橋はかかる

人権のつどい 2013

猿まわし + 講演

入場
無料

とき 2013年 3月3日(日)
14:00~(開場13:30)

ところ 鳥取市民会館大ホール

講師 村崎 太郎さん

4代目
次郎さんも
出演



猿まわし芸人を始めて33年が経ちました。
今から3年前、猿まわし復興30周年の時に、
私は被差別部落出身者であることを公表いたしました。
世の中には弱者と呼ばれる人たちが大勢います。
しかし、弱者の声はなかなか人々の心に届かないのです。
ならば、誰かがその声を拾って代弁していかなければならない…
そう思いました。
でも彼ら弱者は、なかなか心を開いてくれない……
それも実感していました。
だから、私自身が「弱者であることを公にしよう」と
思い立ったわけです。
同じ弱者である私に対しては声を聞かせてくれるだろう。
聞かせてもらえれば、
私が多くの人に伝えていくことが出来る……。
今、私はそういう思いで、講演活動を続けています。
ひとりでも多くの人に、傷ついている弱き人々の実態が
伝わることを心から願っています。

村崎 太郎

ホームページより抜粋 2011年メッセージ

※要約筆記あります。手話通訳、託児を希望される方は、
2月20日(水)までに、下記問合せ先までご連絡ください。
※会場へは公共交通機関をご利用ください。

問合せ先

財団法人
鳥取市人権情報センター
TEL 0857-24-3125
FAX 0857-24-3444
Eメール info@tottori-jinken-joho-center.or.jp

村崎太郎さんプロフィール

1961年、山口県光市生まれ。17歳で初代次郎とコンビを結成し、日本に途絶えた猿まわしを復活。次郎の“反省”ポーズで全国的な人気者になる。
1991年「文化庁芸術祭賞」を受賞。1992年にはアメリカ連邦会館から「日本伝統芸」の称号が授与された。
2007年テレビプロデューサー栗原美和子さんと結婚。翌08年、妻である栗原著の私小説「太郎が恋をする頃までには…」で、被差別部落出身であることを公表。09年には、自らが被差別部落民の経験を執筆した「ボロを着た王子様」を出版。ここ数年は次郎と共に、日本各地の限界集落、ハンセン病療養所、原爆被爆者の皆さんなどを訪ねる出逢いの旅を続けている。
2010年6月に夫婦共著で「橋はかかる」を出版し、部落問題に関して新しい視点で言及し、話題を呼んでいる。同書は、全国図書館協議会の選定図書と認定されている。